



木更津高専だより

2024
96号
March



(高専ロボコン 2023)

Contents

校長挨拶	1
主事、専攻科長挨拶	2~3
地域共同テクノセンター活動報告	4
国際交流センター活動報告	5
学園祭(祇園祭)、植樹式	6
ロボコン地区大会、マラソン大会	7
4年生見学旅行、学生表彰	8~10
お知らせ	11

木更津高専から 次の時代を切り開け！

校長 山崎 誠

卒業生・修了生の皆さん、卒業・修了おめでとう。この日を待ち望んでこられた保護者の皆様、心からお祝いを申し上げます。新型コロナウイルス感染症が第5類に移り、今年度はほぼコロナ禍前の学校生活が戻ってきました。卒業生・修了生の皆さんには、入学後の多くの期間をコロナ禍で過ごし、制限された高専生活を強いられました。それでも、今年度、祇園祭をはじめ他の学校行事を通常の形で行うことができました。そして、多くの困難を乗り越え、卒業・修了の日を迎えることができました。皆さんの努力を称えたいと思います。

木更津高専は、早期技術者教育、専門教育を特長とする高等教育機関です。本科卒業生の皆さんには、一般・専門科目を学び、学習の総まとめとして卒業研究に取り組みました。専攻科修了生の皆さんには、本科5年の学習に加え、更に2年間学習を積み重ね、卒研も含めれば3年間の継続的な研究活動を行いました。研究の成果を学会で発表した人も多いでしょう。10代後半からの若い時期に専門的な勉学を思いっきりできたことで、皆さんは大きく成長したと私は確信しています。

高専生は身体が動く、手足が動くとよく言われます。行動力があるという意味だと私は思います。すぐ行動に移すというだけでなく、走りながら考える理論も高専生は身につけていると私は考えています。これは皆さんの大きな特長です。新しい技術を生み出すこと、新しい会社をつくること、高専生の活躍が求められています。

世界に目を向けてみると、ロシアによるウクライナ侵攻、イスラエル・ハマスの戦争など、地域紛争とそれに起因する混乱が世界の各地にあります。ようやく新型コロナ禍が収束に向かう中、元旦に能登半島地震が起きました。自然災害、感染症、食糧危機、エネルギー危機等、多くの問題が人類の生活を脅かしています。そして、これらの問題解決にも科学技術の進歩が欠かせません。2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた「持続可能な開発目標(SDGs)」として、2030年までに達成すべき17の具体的目標が示されています。また、ICTの分野では、OpenAIのChat GPTなど生成AI(大規模言語モデル)が注目を集めしており、人とAIとの共生社会の形が議論されています。多くの課題もありますが、多くの可能性もあります。

これから皆さんの活躍が期待されています。皆さんは木更津高専で学んできたことを社会の発展に役立てたいと強く思っているでしょう。それは、木更津高専で一緒に学んだ仲間や学校生活を支えてくれた家族や周りの人々の思いと重なると思います。人々と共にあることが、困難な課題に取り組む時の糧になると私は考えています。

卒業生の皆さんには、授業を通じて学んだ知識や技術、部活動等の体験をバネに、修了生の皆さんには、専攻科で身に着けた高度な知識、研究活動の体験を土台に、次の一步を踏み出して下さい。皆さんには活躍できる舞台が待っています。大きな飛躍のチャンスもあります。社会をより良くしていくことが皆さんの夢でしょう。皆さんには未来を切り開く力があると私は確信しています。

卒業生・修了生のこれから活躍を願っています。



● 主事、専攻科長挨拶

教務主事 岡本 保（電気電子工学科 教授）

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。また、卒業生、修了生のご家族の皆さんにも心よりお祝い申し上げます。

5月8日から新型コロナウイルス感染症は、感染症法上の位置づけが5類感染症に変更され、授業だけでなく、体育祭、祇園祭、見学旅行などの学校行事もほぼ通常通りに開催することができました。かなりコロナ以前の生活に戻ってきました。非常に喜ばしいことです。みなさんも充実した学生生活を過ごせたと思います。



近年、さまざまな社会課題の解決のために高専卒業生の活躍が期待されています。本校でもサイバーセキュリティ人材育成事業、電気電子工学科を中心とした半導体人材育成事業および再生可能エネルギー人材育成事業、環境都市工学科を中心とした地球観測技術応用人材育成、アントレプレナーシップ教育などの社会課題の解決を目指した特色ある教育を行ってきました。みなさんはこれから、多くの答えのない問題に取り組んでいくことになると思いますが、木更津高専で身に着けた様々な力がきっと役に立つはずです。是非、自信をもってください。実践的・創造的技術者として、みなさんの今後の活躍に期待します。

学生主事 坂田 洋満（人文学系 教授）

卒業生・修了生のみなさん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

皆さんの在学中には、数十年、数百年に一度といわれる出来事がいくつも起きました。令和元年、私たちの生活に未曾有の影響を与えたCovid-19。経験したことのないパンデミックにより、皆さんの授業や課外活動にも大きな影響を及ぼしました。令和2年に開催予定であった東京オリンピックが史上初の1年延期となつことも記憶に新しい出来事です。令和5年まで続いたCovid-19による行動制限は、現在ようやく収束に向かいつつあります。令和4年にはロシアとウクライナの戦争が勃発し、国際的な緊張が高まりました。この戦争は、世界の平和と安定を揺るがす出来事として、皆さんの日常や心にも影を落としたものと思います。さらに、令和6年元日、震度7を記録した能登半島地震は、一瞬にして地域社会に深刻なダメージを与えました。



これらたくさんの出来事は、皆さんの生活においても非常に厳しい試練であったのではないでしょうか?しかし、このような状況下でも、皆さんは粘り強く互いに支え合いながら勉学や課外活動に励み、仲間との友情を深め、大きく逞しく成長してきました。この試練を乗り越えた経験は、皆さんのが社会に出てもきっと大きな財産となることでしょう。

皆さんのが過ごした木更津高専は、自由な発想で仲間とともに様々な挑戦ができることも魅力の一つだったのではないでしょうか?そのような高専生活で築いた仲間との絆を大切にして生きていって欲しいと思います。今後のみなさんの活躍と心身の健康を心より願っています。

● 主事、専攻科長挨拶

寮務主事 清野 哲也（人文学系 教授）

卒業生・修了生の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。また、ご家族の皆さんにも心よりお祝い申し上げます。

皆さんにとって、高専での5年、もしくは7年という期間はどのようなものだったでしょうか。勉学、課外活動、独自に取り組んだ事柄など、強く印象に残るものがあると思います。そして、そこで費やしたエネルギーが大きいほど自身の成長を促してくれたはずです。

一方、皆さんのが本校で学んだ期間は、2020年からの新型コロナ感染症の流行を契機として学校教育の在り方を含む様々な社会変革が急速に進み、新しい事柄やスタイルへの取り組みに向け強く背中を押された時期でした。

新しいことに挑戦するとき、変化を乗り越えようと立ち向かったときには予想外の力が発揮され、できることの可能性が広がるものだと思います。やらざるを得ない状況に追い込まれたときと、自分から飛び込んだときでは発揮できる力が違ってくるのかもしれません、どうせやるなら!という気持ちでやり切れば、何事にも道が拓けるように思います。

学生生活の中で得た経験、培った粘り強さを発揮し、これから進む新しい環境下でも頑張ってください。皆さんの大いなる飛躍を期待しています。



専攻科長 大枝 真一（情報工学科 教授）

卒業生、修了生の皆さん、ご卒業・ご修了おめでとうございます。

さんが木更津高専で過ごした本科5年間、そして専攻科2年間を含む合計7年間の学校生活はいかがだったでしょうか?これまでに受けた数多くの授業、乗り越えた試験、提出したレポートを思い返してみてください。これらはすべて、学校が設定した基準を満たすための勉強でした。しかし、これからは外部からの基準ではなく、自分自身で目標を設定し、学び、自己評価を行う必要があります。

工学の基本は、仮説を立て、実験を行い、計測し、得られたデータを検証することです。この工学の基本を高専で学んだ皆さんなら、自己研鑽をうまく行うことができるでしょう。つまり、自分が置かれた現状を正確に把握し、優先すべきことに取り組み、その結果を自分自身で評価する。この自己研鑽のサイクルを、「仮説と検証」という工学的視点から行うのです。

学問ほど面白いものはありません。木更津高専で学んだ知識と経験を基盤に、自己研鑽に励み、新しい世界を築く技術者や研究者になってください。皆さんのこれから大きな飛躍を心から期待しています。



地域共同テクノセンターの活動報告

地域共同テクノセンター長 島崎 彦人(環境都市工学科 教授)

地域共同テクノセンターは、高専の教育・研究環境の充実、地域社会のSTEAM教育の推進と産業振興をはかるため、自治体や産業界等と連携しながら様々な活動を展開しています。令和5年度も本校の多くの教職員や学生をはじめ、技術振興交流会や地域社会の皆様にご支援いただきながら、共同研究や受託試験、技術相談、テクノフォーラム、キッズサイエンスフェスティバル、公開講座や出前授業等を実施してまいりました。以下では、キッズサイエンスフェスティバルとテクノフォーラムに焦点を絞り、本稿執筆時点までの活動状況をご報告いたします。

令和5年8月25日、300名近い小学生と保護者を本校にお迎えし、キッズサイエンスフェスティバルを開催しました。キッズサイエンスフェスティバルは、小学生に「ものづくり」や「科学的体験」などの機会を提供する夏休みイベントです。コロナ禍以前と同様に、特別な制約を設けない形での開催となりましたが、実行委員長の佐久間東陽助教をはじめ、本校教職員と学生の尽力により、成功裡に実施することができました。キッズサイエンスフェスティバルでの体験を通じて科学や技術をおもしろいと感じた子供たちが、能動的・主体的に科学技術を学び、日本が再び科学技術立国として再生するための原動力になってくれることを願っています。



キッズサイエンスフェスティバルの様子

令和5年10月24日には、第38回テクノフォーラムをハイブリッド形式で開催しました。国立高等専門学校機構は半導体分野の人材育成事業を実施しており、本校は実践校としてこの事業に参画しています。産業界を支える優秀な人材を育成・輩出するための本校の教育・研究に関する取り組みについて、電気電子工学科の岡本保教授(副校長／教務主事)が「高専における半導体人材育成教育と研究」というテーマで講演を行いました。講演では、本校における半導体研究と、半導体関連企業の技術者による講義・工場見学やインターンシップの実施などの半導体関連企業と連携した教育の展開について紹介がありました。聴講者からも好評で、半導体をめぐる世界と日本の状況をよく理解できた、高専における教育と研究に対する熱意に感銘を受けた、などの声が寄せられました。

地域共同テクノセンターは、今後も、地域社会や産業界との連携機能を強化し、地域のSTEAM教育の推進、本校の教育環境の拡充や人材育成の基盤となる研究力向上に寄与する活動に取り組んでまいります。引き続き、皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願ひいたします。



テクノフォーラムの様子

国際交流センター長 SAPKOTA ACHYUT(情報工学科 教授)

国際交流センターでは、本校学生の海外研修、留学生の受け入れ、海外教育機関との連携などを行っており、多様な国際交流の実現を目指しています。令和5年度の前半には、主に以下の活動を実施しました。

■ 本校学生の海外研修

8月に、専攻科の学生3名がタイ教育省職業教育局(OVEC)およびOVEC管轄の職業訓練学校が開催した研究会と交流活動に参加しました。

8月から9月にかけて、本校の学生8名がシンガポールのRepublic Polytechnic、Nanyang Polytechnic、Singapore Polytechnicで約1ヶ月間の研修に参加し、工学的なテーマで現地の指導教員の下でプロジェクト活動を行いました。

9月には学生9名がマレーシアのSekolah Sultan Alam Shah高校で1週間の研修に参加し、英語による授業参加、共同活動、文化交流などを行いました。

■ 留学生の受け入れ

6月からタイのKing Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang(KMITL)とThammasat大学からの学生4名を受け入れ、2ヶ月間にわたり工学的なテーマでプロジェクト活動を行いました。

10月には、タイ高専(KOSEN-KMITL)のコンピュータ工学科の学生20名が短期留学のため本校に滞在し、授業参加、プロジェクト活動、国際ワークショップなどに参加しました。同様に、マレーシアのSekolah Sultan Alam Shah高校からの学生8名も1週間の交流活動を行いました。

11月には、シンガポールのRepublic Polytechnicからの学生3名が来日し、本校情報工学科の教員の指導のもと、5ヶ月間にわたる授業やプロジェクト活動に参加しました。

■ 海外教育機関との連携

日本の高専制度に関心を持つ海外関係者が増加しており、首都圏に位置する本校との交流を求める海外機関も増えています。令和5年4月から現在まで、香港・イギリス・ネパール・インドネシア・カンボジア・フィリピン・モンゴル・タイ・ベトナムからの学生・教員・教育関係者・政府関係者が来校しました。



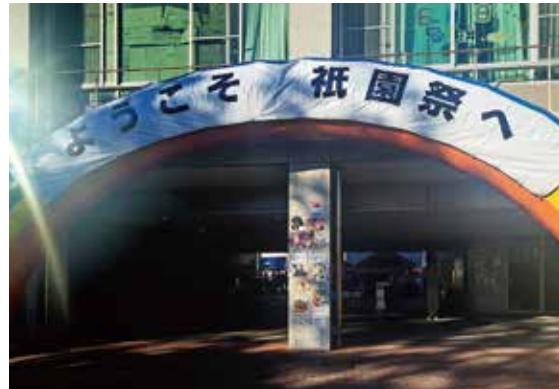
学園祭(祇園祭)

学生主事補 平井 隼人(基礎学系 講師)

10月28日(土)と29日(日)において「温故創新～故きを温めて新しきを創る～」のテーマの下に木更津高専祇園祭を実施しました。

昨年度まではコロナ禍による様々な制限の下で開催された祇園祭でしたが、今年度は4年ぶりに入場者の制限なし、かつ、食品企画を含む以前の形式での実施となりました。しかし、感染症が一切無くなつた訳ではなく、期待と不安が入り混じる中で祇園祭実行委員の学生を中心として約半年間の準備を経ての開催となりました。まさにテーマにあるように、コロナ禍以前の祇園祭を土台としつつ、より安全に多くの方が楽しめる祇園祭にするために様々な新しい工夫を凝らして懸命に準備する学生の姿勢とそのエネルギーには感心するばかりでした。

当日は幸い天候にも恵まれ、多くの方にご来場頂きました。食品企画以外にも高専生ならではの様々な創意工夫がなされた企画が多数出展され、来場者の皆様には大いに楽しんで頂きました。ご来場頂いた関係者の皆様や地域の皆様には日頃からご協力を承り誠にありがとうございます。祇園祭は本校学生のエネルギーや活躍を披露できる大きな機会となりますので、来年度の祇園祭もぜひご期待頂ければ幸いです。



「高専の森」植樹式

令和5年10月28日(土)に高専制度創設60周年記念事業の一環として「高専の森」植樹式を実施しました。

「高専の森」は高専60周年を節目として未来に向けて高専がますます成長することを祈念し、記念樹を植樹するイベントであり、全国立高専が一丸となって実施しています。また、「高専の森」には、持続可能な開発目標(SDGs)の実現と、次の世代の高専生の成長を「高専の森」が見守るというメッセージも込められています。

当日は、衆議院議員浜田靖一事務所秘書 大堀将和様、千葉県副知事 黒野嘉之様、木更津市長 渡辺芳邦様、木更津工業高等専門学校技術振興交流会長 中野賢二様、木更津工業高等専門学校同窓会副会長 鈴木早苗様、木更津工業高等専門学校後援会長 松野清伸様を来賓としてお迎えしました。

式典では、山崎校長の挨拶に続き、大堀様、黒野様、渡辺様にご祝辞を賜りました。

次に、カワヅザクラの植樹を行いました。カワヅザクラには「思いを託します」「純潔」といった花言葉があり、「高専の森」に込められた『次の世代の高専生の成長を「高専の森」が見守る』というメッセージに通ずるものがあります。そのことから、本校では、カワヅザクラを植樹することにしました。

最後に、岡本副校長より謝辞を述べた後、記念撮影が行われ、植樹式は終了しました。

本校では、高専、そして、高専生の更なる成長を目指して教育活動を行っていきます。



ロボコン(地区大会)

ロボコン指導教員 君塚 進 (電子制御工学科 講師)

2023年の高専ロボコンは「もぎもぎ! フルーツGOラウンド」というテーマ名で実施されました。テーマ名から分かる通りフルーツを収穫する競技で、ルールとしては運動会における「パン食い競争」や「障害物競走」を混ぜ合わせたものになっています。競技フィールドは角材やロープなどの障害物が配置された9×9mの四角形で、キウイやみかん、ブルーベリーなど様々なフルーツに見立てたオブジェが1.4m～2.4mの高所に吊るされています。これらのフルーツをロボットが障害物を突破しつつフィールドを周回しながら収穫し、収穫したフルーツの種類や個数によって得点を競うという内容になっています。

木更津高専は特徴的な大車輪を用いてダイナミックに障害物を突破することをコンセプトとした「いっぱい採れるジャン」とパンタグラフを用いて安定的にフルーツを収穫することをコンセプトとした「TAKE採物語」の2台のロボットで出場しました。

結果としては両チームともに振るわず、残念ながら地区大会敗退となりましたが、この敗戦を糧に来年こそは地区大会優勝、全国大会出場を目指して頑張っていきます。2024年は木更津高専が地区大会の主幹校となりますので、応援よろしくお願い致します。



マラソン大会

学生主事補 沢口 義人 (電子制御工学科 教授)

12月21日(木)に風速10m/sを超える強風が吹き荒れる中、3年生までの学生を中心としてマラソン大会を実施しました。昨年度のマラソン大会は雨天中止、今年度の体育祭は雨天順延のうえ雨天中止となつたため、久しぶりの体育行事となりました。

1年生の部、2年生の部、3年生の部の順に、400mトラックを1周してから正門に向かい、学校外周を反時計方向に裏門まで回ってトラックに戻って来るという周回コースを3周するという合計4.4kmのコースを、参加学生がそれぞれ走り抜けました。有志の4年生3名や教員2名も参加し、風向によっては後ろに押し戻されるくらいの強風にも負けずに力走する姿が印象的でした。1年生の部と2年生の部で優勝タイムの差が1秒程度という接戦を制して、J1学生が校内1位となりました。

本校教育方針のひとつである「心身の鍛錬」の成果を示す、意義深い行事であったことと思います。参加者の皆様、お疲れ様でした。



機械工学科

引率教員 伊藤 裕一

2023年の機械工学科の見学旅行は、初日の強風により交通機関の乱れやアクアラインの通行止めの影響を受け、当初予定から3時間以上遅れての道中となりました。しかしながら、見学先の DMG森精機株式会社様には格別のご対応を頂き、見学の機会を頂くことができました。(期せずして、定時後の社内の様子を見られたことは今回の工場見学という貴重な経験をさらに貴重なものにしたと言えるかもしれません。)

2日目は、明石市まで足を運び、川崎重工業株式会社様を見学させて頂きました。ここでは非常用発電装置(ガスタービン)やバイクの組立工場の見学をしました。工場のスケールの大きさに、皆感激していました。その後、大阪に戻り株式会社エクセディ様を見学しました。エクセディ様は独立系自動車部品メーカーの一つで、自動車・2輪車・産業用機械のクラッチやトルクコンバータを製造している企業様です。同じ機械系工場といつても、実際の中身を見ると、在庫の保管方法一つを取っても三者三様色々と違うということなどに気づくことができました。現地で、いちどきに、様々な会社様を見学できたからこその成果です。

3日目は、学生自身で自主的に計画した研修計画に基づき、めいめいの研修に赴きました。

4日目午前中には最後の研修場所であるダスキンミュージアムにて、最新の清掃関連情報を学んだり、併設されたミスドミュージアムにて舌鼓をうち、新大阪駅で解散となりました。

この学年の学生は、入学時からコロナのための休校を経験するなど、これまでとはかなり違った学生生活を余儀なくされてきました。しかし、昨年度末のスキ合宿や今回の見学旅行で本来の高専での学生生活を実感できることだと思います。本当に実り多き見学旅行になりました。



電気電子工学科

引率教員 栗本 祐司

電気電子工学科4年生は、日本を代表する先端技術を扱う企業を訪問し、世界を相手に競争力を維持することの凄さを見てきました。

キオクシア㈱四日市工場の見学をしました。本工場は、3DNAND型フラッシュメモリの製造拠点で世界の同メモリの3割を作っています。世界最大級の工場の中では超微細に積層されたデバイスの製造が行われています。技術者の方に、工場で開発された超絶技巧の世界最先端の半導体加工技術を教えて頂きました。

SCREENセミコンダクターソリューションズ㈱の彦根工場を見学いたしました。同社は、半導体の洗浄装置で世界トップのシェアを誇っています。学生は生まれて初めてクリーンスーツに身を包み稼働中のクリーンルームの中まで入りました。製品のレベルの高さを実感するだけでなく、ナノレベルのゴミを除去する装置が厳しい清浄度の管理によって生み出される現場を体験しました。

三菱重工業㈱の高砂製作所を見学しました。本工場では60%を超える世界最高クラスの熱効率を生み出すコンバインドシステムの製造を行っています。超巨大なタービンや、それを製造するための日本最大級の旋盤を見て、スケールの巨大さに驚くと共に、世界で勝負する装置とは、かくも凄いものだと実感しました。

その他、学生は関西方面の各自の興味を持った観光(社寺、USJ等)を満喫しました。



電子制御工学科

引率教員 関口 明生

1日目はAGC株式会社化学品カンパニー千葉工場において高付加価値なフッ素BtoB製品の製造プロセスを拝見し、生活を支えるプラントのお仕事を学びました。午後には、セイコーインスツル株式会社高塚事業所にて400万円もする腕時計の精密部品などを拝見し、質実剛健なものづくり技術を実感しました。

2日目は自主研修日で、世界遺産の宮島・厳島神社を多くの学生が見学しました。

3日目の午前は広島平和記念資料館で原子爆弾の惨禍と科学者・技術者の責任について各自で学びました。再集合を経て午後には、半導体ダイシング装置の世界シェア7割を占める株式会社ディスコの桑畠工場を見学し、未来型といえるような働き方に驚きました。夜はディナークルーズでテーブルマナーを楽しく学び、厳島神社の大鳥居や広島港の夜景を海から眺めました。

最終日の朝は広島のホテルからグループごとの目的地に出発しました。原民喜の「鎮魂歌」を知り読んだことが広島訪問の一背景になりましたが、残念なことに、世界が気に病む戦争は旅行前に減るどころか増えてしまいました。近い将来の働き方はもちろん、歴史や環境や平和も意識する機会となりました。



情報工学科

引率教員 SAPKOTA ACHYUT

情報工学科の4年生は見学旅行で関西方面に行きました。

1日目には、パナソニック ホールディングス株式会社の製品セキュリティセンターにて製品セキュリティに関する講義を受けた後、ハニーポットがリアルタイムで攻撃される様子を見学しました。攻撃元の国や対象となる通信プロトコルを簡単に確認できるデモンストレーションは、情報工学科の学生にとって非常に興味深い体験でした。

2日目は、造幣局、パナソニックミュージアム、そして大阪大学豊中キャンパスを見学しました。造幣局では、硬貨製造過程の自動化や高度な画像処理とセキュリティ技術の実用例を通じて、情報工学科の知識がどのように応用されるかを具体的に理解する機会となりました。パナソニックミュージアムでは、創業者松下幸之助氏の起業家精神や技術の歴史的進展に関する展示を通じて、技術革新の重要性を学びました。また、大阪大学総合技術博物館では、同大学が創立以来収集・保管してきた学術標本や最新の教育・研究成果、社会への貢献に関する展示を見学しました。3日目は自由行動で、各自が好きな場所へ行き楽しんだ後、4日目にホテルをチェックアウトして解散しました。

全体的に、知識を深めるだけでなく、学校外でのグループ活動や責任ある行動を取ることを通じて、学生たちの成長に繋がる意義深い機会であったと思います。



環境都市工学科は横浜および神戸方面で見学旅行を行いました。

1日目は荒天により予定していた現場見学ができずに波乱の幕開けとなりましたが、お昼には横浜中華街に到着して中華街での昼食を楽しみ、神戸に移動しました。

2日目は、防災研究所兵庫耐震工学研究センター、阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター、阪神高速震災資料保管庫の見学を行い、地震災害の実際について学ぶとともに、それに備えることの大切さを学びました。ホテルでディナービュッフェを楽しんだ後は、六甲山からの夜景を鑑賞しました。震災で大きな被害を受けた神戸の街が復興した姿を見ることができました。

3日目は自主研修で、早朝にはホテルを出発したグループもありました。大阪観光やUSJ、京都観光、神戸の六甲山や神戸北野異人館街など、思い思いに楽しんだようでした。

4日目は明石海峡大橋に移動し、日本最長・最大の吊り橋の大きさに圧倒され、橋の科学館では明石海峡大橋を架橋する流れを、事前の調査から学ぶことができました。

初日と最終日が天気に恵まれませんでしたが、2日目と3日目は好天に恵まれ、沢山学び、沢山楽しめた見学旅行となりました。



学生の特別表彰者一覧

次の学生の皆さんは、課外活動および学業において優れた成果を挙げた業績により特別表彰として校長より賞状と副賞が授与されました。

【特別表彰を受賞した皆さん】

■ 令和5年度 優秀学生賞

機械工学科	5年	松野 佑亮
電気電子工学科	5年	佐藤 凜
電子制御工学科	5年	古賀 穂花
情報工学科	5年	鈴木聰一郎
環境都市工学科	5年	中野 孝徳

■ 第58回全国高専体育大会(陸上競技)

女子走高跳	1位	電気電子工学科	5年	佐藤 凜
(通算3回優勝により、高専連合会より特別表彰を受賞)				
女子走幅跳	2位	電気電子工学科	5年	佐藤 凜
男子やり投	2位	電子制御工学科	4年	加治 直樹
男子200M	3位	電子制御工学科	4年	羽生虎太郎
女子砲丸投	3位	電気電子工学科	3年	渡来 桃
女子総合	3位	陸上競技部(女子)		

お知らせ

保健室より



少しづつ春の訪れが感じられるようになってきましたが、インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症やノロウイルスによる感染性胃腸炎もまだ注意が必要な季節です。

感染症予防の基本は、正しい手洗いです。石鹼をよく泡立てて、トイレの後、食事の前、調理の前後、外出から帰宅した時など、忘れずに行うようにしましょう。

十分な休養と栄養補給、うがい、咳エチケット、マスクの着用を心がけましょう。

体調が悪い時には、学生課(0438-30-4038)へ連絡し登校を控えてください。感染症に感染している、またはその疑いがあると診断された場合は、公欠(「学校感染症に関する証明書」または医師による診断書の提出が必要)となります。

春休み中は生活のリズムが崩れがちです。毎年春休み明けには、体調不良の人が多く保健室にやって来ます。

昼夜逆転など不規則な生活が原因のことが多いです。新学期に良いスタートが切れるよう、規則正しい生活を送るようにしましょう!



〈健康づくりのための睡眠指針2014～睡眠12箇条～〉

1. 良い睡眠で、からだもこころも健康に。
2. 適度な運動、しっかり朝食、ねむりとめざめのメリハリを。
3. 良い睡眠は、生活習慣病予防につながります。
4. 睡眠による休養感は、こころの健康に重要です。
5. 年齢や季節に応じて、ひるまの眠気で困らない程度の睡眠を。
6. 良い睡眠のためには、環境づくりも重要です。
7. 若年世代は夜更かしを避けて、体内時計のリズムを保つ。
8. 勤労世代の疲労回復・能率アップに、毎日十分な睡眠を。
9. 熟年世代は朝晩メリハリ、ひるまに適度な運動で良い睡眠。
10. 眠くなってから寝床に入り、起きる時刻は遅らせない。
11. いつもと違う睡眠には、要注意。
12. 眠れない、その苦しみをかかえず、専門家に相談を。



(健康づくりのための睡眠指針2014厚生労働省より引用)

年度末・年度始めの行事

- 2/28(水)～3/31(日) 学年末休業
3/19(火) 卒業式・修了式
4/1(月)～4/4(木) 春季休業
4/3(水) 開寮(2年生以上)
4/4(木) 開寮(新入生)
4/5(金) 入学式
4/8(月) 始業式
4/9(火) 授業開始

学生相談室より



学生相談室は、皆さん一人一人が充実した学生生活を送るようにサポートしていくところです。相談内容についてはかたく秘密を守りますので安心してください。相談室は講義棟A1階 保健室隣にあります。保護者の方の相談も対応いたします。

☆相談内容としては次のようなことが挙げられます。

- ・学業・進路について
- ・自分の性格や対人関係について
- ・健康について
- ・その他(家庭の事情で悩んでいる、経済的に困っている、恋愛、性、宗教のことで悩んでいる、など)

☆いつ?

- ・学生相談室長及び看護師は、随時
- ・カウンセラー

(長期休業期間や試験期間は変更の可能性があります)

坂本先生 月曜日の12時～17時

第1水曜日の12時～17時

愛甲先生 火曜日の10時～17時

水曜日の13時～17時(第1水曜日を除く)

木曜日の12時～17時

高井先生 金曜日の13時～18時

- ・スクールソーシャルワーカー 柴田先生

月1回(第4火曜日)13時～17時

☆相談予約は?

■ 保健室で受付けています。

電話:0438-30-4036

E-mail:soudan@a.kisarazu.ac.jp



教職員の異動

(採用) 令和6年1月1日

電気電子工学科 准教授 サマラトュンガ ワサンタ

(退職) 令和5年12月31日

基礎学系 准教授 藤井 翔

“祝”永年勤続教職員表彰

(勤続20年)

人文学系 准教授 武長玄次郎
情報工学科 准教授 米村 恵一

叙位

※敬称略

中村 強 (基礎学系 名誉教授) 従四位

訃報 謹んでお悔やみ申し上げます ※敬称略

山田 勝兵 (第7代校長)



独立行政法人国立高等専門学校機構
木更津工業高等専門学校
ホームページ <https://www.kisarazu.ac.jp/>



木更津高専だより第96号 令和6年3月発行
〒292-0041 木更津市清見台東2-11-1
☎ 0438-30-4000